

北 九 州 市 要 望 事 項

| 要 望 項 目  | 要 望 の 要 旨  |
|--|--|
| <p>1<br/>「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産への公的支援の推進</p> | <p>本市を含む関係自治体8県11市が一体となって取り組みを進めてきた「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は、平成27年7月に世界遺産登録が決定しました。</p> <p>今後は、現在の制度的枠組みのもとで、国及び関係自治体と緊密な連携を図りながら、構成資産の保全等に努力していく所存です。</p> <p>については、国においても、構成資産の管理保全に関する技術的・財政的支援、並びに稼働中の資産を保全する所有企業の負担軽減に向けた支援を実施していただくよう要望いたします。</p> <p>(本市の現状説明)</p> <p>本市からは旧官営八幡製鐵所関連施設が構成資産に含まれています。当該施設は110年以上稼働している日本最古級の工場等で構成されており、企業の事業活動を妨げることなく、工場を稼働させながら保全するための取り組みが必要です。特に稼働中の世界遺産登録施設の保全について、新たな補助制度等の創設が急務となっている状況です。</p> |

| 要 望 項 目                        | 要 望 の 要 旨   |
|--------------------------------|---|
| <p>2<br/>スタジアム整備事業の<br/>推進</p> | <p>北九州市では、Ｊリーグの公式戦を中心としたスポーツ振興と街なかのにぎわいづくりの一環として、ＪＲ小倉駅の北側にスタジアムの整備を進めています。現在、建設工事は順調に進捗しており、Ｊリーグの平成２９年シーズン開幕に合わせ、平成２９年３月の供用開始を予定しています。</p> <p>本市のスタジアム整備事業は、スポーツ環境の整備等、地域におけるスポーツ振興施策への助成を目的とする「スポーツ振興くじ助成金」の趣旨と合致するものと考え、当該制度の支援により事業を推進していくこととしています。そこで、本市はスタジアム整備の財源として、本助成金の活用に向け、平成２７年度に交付申請書を提出し、平成２８年度に助成金の受け入れを予定しています。国の支援を得て、鋭意取り組んでまいりますので、上限額満額の助成金交付に向けた特段のご配慮を願います。</p> |

| 要 望 項 目                           | 要 望 の 要 旨   |
|-----------------------------------|---|
| <p>3<br/>北九州空港の機能拡<br/>充・利用促進</p> | <p>物流の高速化、高度化が進む今日、北九州空港の機能拡充を通じて国内及び国際航空物流ネットワークの形成・充実を図ることは、自動車産業や半導体産業等ものづくり産業の集積が進む北部九州圏の経済活性化や広域的な物流拠点形成のために、必要不可欠です。</p> <p>この施策は、本市の地方創生を進めるために重要な取り組みのひとつであり、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「日本再興戦略」に盛り込まれた施策の実現にも資するものと考えています。</p> <p>そこで、北九州空港の機能拡充、利用促進について、以下の事項について特段のご配慮をお願いいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 エプロン、スポットの整備促進及びMR J 飛行試験の実現に向けた必要な協力の実施</li> <li>2 大型貨物機による安定した離着陸を確保するための滑走路3,000m化の早期実現</li> <li>3 早朝・深夜帯等における空港使用料等の軽減措置の拡大</li> </ol> |

| 要 望 項 目   | 要 望 の 要 旨  |
|---|--|
| <p>4<br/>主要道路等の整備促進</p> <p>・国道3号黒崎バイパス</p> <p>・都市計画道路<br/>戸畑枝光線</p> <p>・連続立体交差事業を中心とした広域拠点折尾地区の整備促進</p> | <p>北九州市は、西日本における物流拠点都市としての国際競争力確保に向け、港湾や空港、鉄道ターミナル駅等の拠点整備を進めてきましたが、それらの相互連携を図るためには、道路整備は不可欠です。</p> <p>特に、国道3号黒崎バイパスは、本市の副都心黒崎の再生、地域産業の振興、安全で快適な地域環境の改善に欠くことのできない自動車専用道路です。これまでに5.8kmのうち、5.2kmが開通し、国道3号の渋滞緩和や小倉都心部への速達性向上や新門司港・北九州空港等への物流の効率化が図られています。しかしながら、国道3号の現道や国道200号に未接続で、直轄国道のネットワークが形成されておらず、黒崎バイパスの本来の効果が十分に発揮できていない状況です。</p> <p>黒崎バイパスの開通効果を最大限に発揮させるためにも、①「道路予算の総額の確保」及び早期全線供用のための「本道路整備事業予算の確保」、「事業推進」が必要です。②「春の町ランプと陣原ランプの早期供用及び残る黒崎西ランプの工事に早期着手」が必要です。③特に、来年度予算においては、春の町ランプでの複数年にわたる橋梁本体工事の推進に向けた重点的な予算の配分が必要です。</p> <p>また、戸畑枝光線は、北九州都市高速道路、若戸トンネル、国道3号黒崎バイパスと一体となり、企業進出が進む響灘地区、戸畑区臨海部、東田地区等を結ぶ、環状放射型の自動車専用道路ネットワークを形成する道路です。しかしながら、この環状部の戸畑枝光線がミッシングリンクとなっているため、自動車専用道路ネットワークの本来の効果が十分に発揮できていない状況です。</p> <p>市内各拠点間の連絡を強化し、高速性・定時性の向上、市街地及び路線周辺地域における交通混雑緩和、都市高速道路ネットワークにおける代替ルートの確保、災害時の緊急輸送や救助救援活動の基幹道路網を構築するため、戸畑枝光線の早期整備推進が必要です。</p> <p>魅力ある地方の創生を実現するため、本市では、都市のコンパクト化の推進と周辺等との交通ネットワークの充実を図っているところです。</p> <p>その中で北九州西部都市圏の中心核である折尾地区において、学園都市や北九州学術研究都市の玄関口にふさわしい地域拠点の整備として、連続立体交差事業、街路事業及び土地区画整理事業を推進しています。</p> |

事業開始 から10年を経てようやく事業の進捗を実感できるようになり、地元では、新たなまちづくりと早期完成への期待が非常に高まっており、事業を確実に進捗させる必要があります。

事業 は、ここ数年間ピークを迎え、特に平成28年度には大きな節目となる鹿児島本線仮線切替を予定しています。

以上の主要道路の整備促進に向けた財源の安定的な確保につきまして、特段のご配慮をお願いいたします。